

東山の森だより

【第 20 号】

発行：なごや東山の
森づくりの会
発行者：滝川正子
編集：広報班
発行月：2014年4月
(年2回発行)

目次

・「いい汗かいてますか？」東山の森づくりの会発足 10 周年記念シンポジウム	……	1～2
・定例森づくり活動へのお誘い	小笠原 芳夫	3
・班活動紹介 平和公園里山班	馬田 邦夫	3
東山南部里山班	滝田 久憲	3
竹くらぶ	三村 由江	4
そのほかの班	……	4
・森で学ぶ「もっと知ろう 東山の森づくり講座」	滝川 正子	4
・森で子どもを育む ドングリシャワーで大はしゃぎ	今尾由 美子	5
ザリガニ釣りはなぜ楽しい？	三村 由江	5
子ども東山の森づくり隊	藤岡 嶺子	5
子どもたちの声	……	6
・森の生き物 植物 「カラタチ」	永柳 道枝	6
動物 「春の出会い」	佐藤 裕美子	6
・森のトピックス 小型哺乳類の生息調査・捕獲	鬼頭 保	7
炭焼きの煙は消えましたか？	松田 久幸	7
・森の表情 「森へ帰ろう」	田畑 恭子	8
・森づくりを生かした支援・交流	……	8
・なごや東山の森づくり憲章	……	8

いい汗かいてますか？

東山の森づくりの会発足十周年記念シンポジウム

平成一六年二月、なごや東山の森づくりの会が発足して今年はやうど十年目。これを記念にこの十年を振り返りつつこれからの十年を語ろう、と去る一月二十五日、里山の家に三〇名余りが集いシンポジウムを開きました。

第一部 提言

滝川正子さん（当会代表）

名古屋にオリンピックを誘致し平和公園にメインスタジアムを、という話がもちあがった時、「この森が壊されてなるものかと、近隣住人と



共に反対の烽火を上げ、以来、自然観察会、平和公園愛護会を率い名古屋市の緑行政に深くかかわりつつ東山の緑を守ってこられました。この三〇年余りの活動を貴重な映像とともに回顧。今の東山の森づくりのあり方、とりわけ行政との協働の実態にいくつかの疑問符を投げかけられました。

小池敦夫さん

（公財名古屋市みどりの協会部長）
名古屋で永年緑政に携わり、

東山の森についても行政・市民両方からの視点でサポート戴きました。東山公園、平和公園の位置づけと歴史の変遷について、又公園の行政的区分けと市民意識のギャップ、名古屋市の緑地の分布状況、森が持つ多様で重要な役割などについてお話を伺いました。



第二部 フリー座談会

《いい汗かいていますか？》

これでもいいのか東山の森づくりの日頃リーダー的立場でいろいろな活動に参加されている方々が多く、現場から見た現在の東山の森づくりの問題点、解決策、あるべき姿など自由に話し合ってもらいました。その中からいくつかをご紹介します。

① 当会の活動に対する市民の認知度がいま一つ低いような気がする。この面で成功している他団体の活動を見て勉強することも大事ではないか。

② 東山は広い。パワー不足を補うためCSR（企業の社会的活動）をもっと活用しては？

③ 《定例森づくり活動に關し》

- ・ 趣味的色彩が強く収穫物がある班に会員が集中する傾向があり、本来の森づくりである定例活動への参加が少ないのは問題。定例会にも参加し会員各人が森づくりの全体感を持つことが市民に活動を理解してもらおう出発点になるのでは？（この意見に対しては滝川代表か



ら、木を伐ることだけでなく田んぼも畑も炭焼きも里山の循環の輪の一つで立派な森づくり活動と思う。むしろ色々経験できるような運営上の工夫が必要では？というコメントがありました。

- ・ 活動場所の選定のベースに「森づくり計画」が必要と思う。行政も参画して「森づくり基本構想」と現

場の活動を結ぶ具体的な森づくり計画を作るべきでは？

- ・ 月一回の定例活動は参加者が三〇人前後でしかも高齢者中心なので、やれる作業は限られてくる。回数を増やすとか若手の参加を促すなどの工夫が必要だ。

- ・ 里山の循環を促すにはコナラ、アベマキなどの高木層の伐採が必要だが、市が手をつけようとすると市民から苦情電話が入り対応が大変と聞くが・・・

（市民の声に対応することも大事な行政の仕事。よく話し合うしかない。また森づくりの指針としては「森づくりガイドライン」が市のホームページで公開されている。役立てていただければと思う。）（行政）

- ・ 「森づくりガイドライン」はこれですべての名古屋の森を管理しようというものではない。その場所その場所の実態に添い作り直すべきで、東山も具体的な計画を作ろうという話になったと聞いている。

- ・ 久屋大通でケヤキの古木をたくさん伐採した時は予め作業の目的、意味を看板で周知した結果、トラブルはなかったようだ。

④ 森づくりに関する基礎的知識の習得が大切。過去三回の森づくり講座に参加し、今までのやり方の中に初歩的誤りがあったことがわかり、目から鱗だった。やはり教育は大切だと思う。

⑤ 班活動の内、ソバ作りなどは趣

味的要素強いと思うが・・・（ソバ畑という懐かしい里山の景観を提供しているわけで、立派な森づくりといえる。）

《最後に》

真弓浩二さん

（森づくり運動の指導者として幾多の方面で理論・実践両面で活躍、当会の会員）

今日の議論を聞いて感じたのは、名古屋市と森づくりの会双方がやるべき場所、仕事、程度などをもう少しはつきり分けた方がいいということ。森づくりの会も予算を持ってやりたいことを我々の意思で進めていくことが大事。勿論市の方針は無視できないが。



但し問題は財源。で、市も我々もこれから公園経営というものを念頭に、その第一歩として森の恵みに価値を見出し、都市の暮らしに里山を持ち込む発想が大事。

単なる労働提供ではなく、森づくりから派生する色々な材料から、価値あるものを作り出すことに楽しみ、喜びを見出すことが大切。森づくりの際に出る木の枝をちよっと工夫し簡単な加工を施せば、東急ハンズで何百円で販売されている工作用素材にも化ける。

この考え方を市にも理解しても

らい、有効活用していく仕組みを考えていくべきではないか。

武田明正さん（当会の顧問）

市民からはこの森に關し、もつとベンチやトイレが欲しいとか灯りをつけてほしいなど注文が出ていると聞く。しかしこの森はNYのセントラルパークとは違う。もつと自然を感じる森、我々を啓蒙してくれる森を目指している。この基本的な考えを行政は市民に理解させてほしい。



新しい十年に向かって
新たな一步を力強く踏み出しましょう！

（文責 広報班 水谷）



昨年9月から「定例森づくり活動」を担当することになりました小笠原です。生きものを見つけたら、いつも作業を放り出して見にいきたくなってしまい、本当にちゃんと務まるのかと自分でも心配しております。



さて、定例森づくり活動は、誰もが参加できる活動で、毎月第1日曜日の一日を、森に親しみ・育てるといふ、森づくりの会の中心的な、かつ重要な行事です。

奇数月は東山公園側、偶数月には平和公園側と、交互で実施して、さまざまな場所を見ながら東山の森全体で作業をする、場所も内容もバラエティーに富んだ活動となっております。

いつもの班活動とは、また違ったところを体験してみる良い機会になりますので、ぜひ多くの会員のみなさまに参加していただきたいものです。

春には深い森の中で桜の花を眺めて陽だまりで、空中に静止しているビロードツリアブも見ながら、夏にはバッタやトンボと戯れながら、秋には紅葉のなかでアベマキの実や時には栗の実の落ちる音を聞いて、また早春にはスマレやカンアオイの小さな花を探しながら、ひと汗かいたあとでおいしい弁当を食べてみませんか。

そして、季節ごとに変わっていく豊かな自然を楽しみながら将来の里山の姿を、みんなで作っていきましょう。



★ 班活動紹介 ★★★★★

平和公園里山班 (活動:毎月第3日曜日)

馬田邦夫

平和公園里山班はくらし森で里山の景観保全、再生を目的として活動しています。

入会6年目の馬田が班長をしています。活動日の欠席が少ない事と年長者と言うだけの班長ですから森づくりの知識もスキルありません。知識、スキル、経験豊富な班員の皆さんの力を借りて運営しています。



活動は年間計画に基づき中道に沿った森の手入れを、春～夏は下草刈り、秋～冬には常緑樹の伐採を主としております。しかし班員の森への思いは色々でササユリやキンランの咲く森にしたい、カキツバタを増やしたい等があります。柑橘畑や栗林の手入れ、伐採木からの椎茸づくりもあります。皆さんの希望を聞きながら随時、作業に入れて進めています。森にある梅や柿を活用したい。松茸の生える森はどうか等の声も出ており、今年は活動の幅も広がりそうです。

みなさん里山班で一緒に活動しませんか。

東山南部里山班 (活動:毎月第4土曜日)

滝田久憲

東山南部里山班の活動場所は東山公園中部と南部地域です。

活動範囲が広く、四季折々で活動場所を変えて作業を行っています。というのは、場所によって保全の内容が異なり、それぞれに作業に適した時期があるからです。場所が変わり、作業内容も異なることから、気分も変わり、いつも新しいものにチャレンジしているような気持ちになります。



昔の里やまでは、人々が田んぼや畑、果樹園、その後背地にある雑木林などで様々な作業を行っていました。こうした意味で、里やまのくらしを少しでも体感できればと考えています。

竹くらぶ (活動: 毎月第3・4木曜日)

三村由江

～パワーアップした竹くらぶ～

2005年4月女性7名でスタートしました。今ではメンバーも増え、月二回の作業となりパワーアップした「竹くらぶ」ですが、平和公園南部の中道途中に繁茂したトウチクの竹藪を竹林に変えて、「奥の桜を元気にしたい、竹藪から救出しよう!」というのが始まりでした。

今思えば当時のトウチクの竹藪は、中に入るのも怖く薄暗い藪の中の作業は大変で、枯れた竹を切り、倒れ絡み合った竹の中から一本ずつ抜き出し枝を払い、稗を綺麗に積み上げ整備していきました。

大変な中にも、少しずつ光が差し明るくなって来た竹藪を見ることで達成感がありました。気分もリフレッシュされて気分爽快です。森の中で過ごす時間が心身の健康にもつながり癒されたことが実感できます。この気持ちが今日まで整備活動を続けてられたと思います。

くらしの森エリアでは18種の竹・笹があり、全てに手入れが行渡りませんがこれからも地道にみんなで作業を続けていきます。



そのほかの班

子ども東山の森づくり隊	活動:年3回	活動エリア:くらしの森・いのちの森・うるおいの森
炭焼班	活動:毎月第3土曜日	活動エリア:くらしの森の炭焼広場
田んぼ班	活動:毎月第2日曜日	活動エリア:くらしの森の田んぼ
畑班	活動:毎月第2・4日曜日	活動エリア:くらしの森の畑
藤巻班	活動:毎月第2土曜日	活動エリア:いのちの森東部藤巻町地内
調査活動班	活動:随時	活動エリア:東山の森全域
東山の森そばくらぶ	活動:毎月第1土曜日	活動エリア:猫洞通1バス停東側

森で学ぶ もっと知ろう 東山の森づくり講座

滝川正子

名古屋は、現在は約227万人の大都市です。森は薪供給や田畑として暮らしを支えていたが、すでにその役割を大きく変化させ、人が自然と関わる場所、自然を通して安らぎの場所としての価値が見直されています。

「森で遊び」「森で学び」「森で汗をかく」など直接参加してこそ守られる里山の自然環境であり、次世代へ伝えたい森は財産です。眺める森から関わる森へ、ということで、昨年からの当会の会員であり、雑木林研究会の眞弓浩二さんに森づくり実践講座の講師をお願いしました。具体的には、これまでのなごや東山の森における里山林、畑、田んぼ、炭焼きなどの里山保全活動とその運営を振り返りながら、これからの「東山の森づくりのあり方」について考える昨年度2日間、今年も2日間の計4日間を次のプログラムで実施しました。

・東山の森づくりが目指すもの ・東山の森の現状と課題について
・森づくりのガイドラインについて ・里山保全作業の実践
に毎回20名～25名の参加者があり、「マツの実生、ここにもあった!」「ツツジを切っちゃった!」「落葉がこんなにもある!」

この人たちが森づくり軍団となり、森が力強く保全されることが期待されます。



森で子どもを育む

どんぐりシャワーで大はしゃぎ

今尾由美子

どんぐりシャワーのイベントは、里山の家の利用者を増やし、くらしの森を知ってもらうきっかけになるようにと始まった森遊びです。会員のNさんが病気で外に出られないお孫さんにお土産としてどんぐりを渡されたときに思いついた遊びだそうです。

マテバシイをたくさん集め、磨いたものをざるに入れ、頭の上からかけます。紙の帽子をかぶっているので、痛いことはなく、どんぐりを落とすまでのドキドキ感が楽しいようです。床に落ちたどんぐりの上に寝転がったり、歩いたり、遊びはどんどん広がります。

次に、どんぐりを箸でつかんだり、小さなお猪口に投げ入れたりするゲームもします。森の恵みのどんぐりで、スタッフも子どもたちも楽しい時間を過ごすことができます。



ザリガニ釣りはなぜ楽しい？

三村由江

トンボを守る ザリガニ釣り大会

平成25年10月14日に開催しました 2回目となるこのザリガニ釣り大会には予想を上回る79名（内子ども75名）が参加しました。駆除を目的に楽しく釣ってザリガニのことも学びました。

用意した竹竿に各自凧糸を付け餌のスルメを縛り付けます。石のおもりを付けたり、スルメを細く裂いたり、スルメの足の方が釣れると聞いて餌を付け替えにきたり工夫を凝らして挑みました。

ザリガニが餌を引く感触とバケツまで釣り上げる緊張感が面白いようです。池にポチャンと！落ちた時は相当悔しい様子。真っ赤な大きいアメリカザリガニを釣り上げると歓声が上がります。

一番釣り上げたのは、5歳の男の子で47匹。みんなで664匹のザリガニを釣り上げました。



子ども東山の森づくり隊

藤岡嶺子

隊員の年齢は小1～中学生だが2/3は小1～3年です。付き添いの父母が未就学児をつれて参加することもあり年齢差の大きい参加者と活動しています。そのため隊員暦の長い上級生から活動内容について、「もっとハードに」とか「もっと長い時間を」とかの意見が出ることがあります。



子どもたちの「動くのが好き」にはいつも感心させられます。リヤカーはめずらしくて引きたいし乗ってみたい、初めてのノコギリでも一本切ると次はより太い木に挑戦したい、午前中の作業に疲れたはずが昼食が済むとシートには荷物だけ残っていて座っている子は一人もいない、ハイキングあと集合場所の「里山の家」まで一番を競って全力で走って戻って来る……。

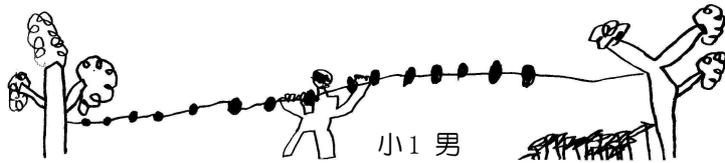


この元気な姿や、「今日の内容はたのしかったですか？」のアンケートには全員が○を付けていて、期せずしてスタッフにねぎらいの気持ちを伝えてくれたことを感じるすることができます。

子どもたちの声

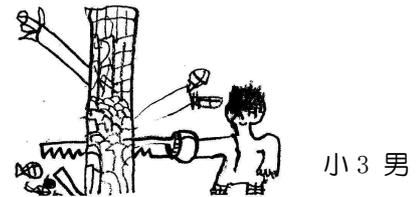
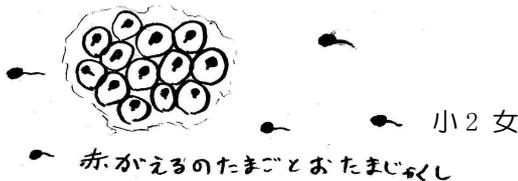
子ども東山の森づくり隊講座より

◇第二回講座「ナイトハイキング」平成 25 年 10 月 5 日



アンケート主な感想：もっとおおくに行きたかった。竹リーナがよかった。
スパイダーゲームなどはいつもやっていないから楽しかった。

◇第三回講座「雑木林できこり体験」平成 26 年 3 月 8 日



アンケート主な感想：
みちの無いところを通ったのがおもしろかった。
森ではじめてへびを見たのがよかった。
かえるの卵がたくさんあった。
木を切ってきれいになった山を見て気持ちよかった。

今日は、いろんな木や植物などを見てとてもおもしろかったです。



小5女

森の生き物 植物 カラタチ

永柳道枝

くらしの森の中道の中ほどに1本の「カラタチ」の木があります。カラタチはミカン科、落葉・低木で奈良時代に中国から渡来しました。柑橘類の中では最も耐寒性があり、北海道から沖縄まで植栽可能で、一般的には柑橘類の台木として活用したり、トゲがあることから生垣としての用途が多いのです。

四月になると五弁のまっ白な控え目な花が咲きます。果実はスダチ似のまろい玉で、固くて食用には向きません。又、食草動物から身を守るためか 何とも見事な棘があり人も寄せ付けません。

しかしくらしの森に棲む“アゲハチョウ“ が大好きな木。

カラタチの白い花や青い針の棘、まろい果実のことを歌った北原白秋作詞の「カラタチの花」、初恋の別れを歌った島倉千代子の歌う「からたち日記」、四季を通して気になる「カラタチ」の木・・・

あなたはどちらの歌に思い出がありますか？

♪♪ からたち からたち からたちの はあ～な～♪♪



森の生き物 動物 春の出会い

佐藤裕美子

スプリング・エフェメラルという言葉をご存じでしょうか。「春のはかない命」と訳されますが、春の一時のみ現れ他の時期は姿を消してしまう植物や昆虫のことを言います。早春の陽だまりで冬眠から目覚めたタテハ類に交じっていち早く飛び出す黒っぽい小さなチョウはコツバメです。ビロードツリアブとともにコバノミツバツツジの周りをせわしなく飛び回り、一見チョウには見えません。

わずか1cmほどで裏は地味なこげ茶模様ですが、表は深い青色にきらめく美しいシジミチョウです。



コツバメ

幼虫はツツジ類の花を食べて育ちます。春の花が咲く明るい草地ではモンシロチョウやスジグロシロチョウに交じってツマキチョウが飛んでいます。素早くなかなか止まらないので分かりにくいですが、小ぶりで棲先が尖っておりオスは黄色いので区別が付きまします。裏の模様は枯草のよう、翅を閉じて止まると周りの草むらに溶けこんでしまいます。

これらの蝶たちは産卵を終えると姿を消し、新緑が森を覆う頃には次の世代が蛹になって翌年の春まで長い眠りにつくのです。



ツマキチョウ

森のトピックス **森のトピックス** **森のトピックス** **森のトピックス** **森のトピックス**

小型哺乳類の生息調査・捕獲

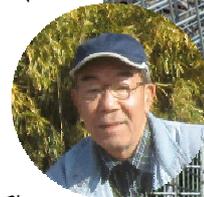
鬼頭 保

ここ数年、緑地やため池のみならず市街地においても、特にアメリカ原産のアライグマによるとみられるニホンイシガメやカスミサンショウウオなどの在来生物の被害情報や目撃情報をよく耳にします。ここ東山の森も例外ではなく、一昨年からはハンノキ湿地や東山新池に設置した数台の赤外線カメラにおいてもアライグマが確認されており、またハクビシンの目撃情報もありました。

そうした中、25年度もなごや生物多様性保全活動協議会と協働により、ハンノキ湿地と猫ヶ洞池周辺に小型動物用ワナを5基仕掛けました。期間は10月15日～11月末までで、当会会員3名（大槻さん、滝川さん、水谷さん）とともに見回りローテーションを組んで実施した結果、猫ヶ洞池ではハクビシン1匹、ハンノキ湿地ではアライグマ4匹とタヌキ1匹、シベリアイタチと思われるイタチ1匹が捕獲されました。タヌキは解き放し、捕獲されたハクビシン、アライグマ、イタチは標本にしたり、解剖して産子数や胃内容物を調べ防除対策に役立てていく様です。



ハクビシン



アライグマ

その後、継続設置の赤外線カメラでは、タヌキやネコ以外の哺乳類は確認できておりませんが、26年度も引き続き同様な調査・捕獲活動を進め、在来生物の保全につながればと思っています。

このような活動に興味のある方、是非のご協力をお待ちしています。

炭焼きの煙は消えましたか？

松田 幸久

「火のないところに煙は立たぬ」逆説的に言えば、「火のあるところでは煙が立つ」のです。ましてや、木を蒸し焼きにしていく「炭づくり」で、煙が出ない訳がないのです。

その煙を消そうという炭焼きの根幹にかかわる難題に立ち向かう、我々も、無謀なチャレンジを続けているものだとつくづく思います。

ちょっと前でいうと「森の中の懲りない面々」でしょうか。

しかし、市街地で炭を焼くという事を実現する為には、越えなければならないハードルである事も確かです。

実験・改良を重ねてきた二次燃焼装置の完成度が向上し、外部組織の「竹和会」という「減煙の友」も得て、情報を共有しすすめてきた結果、かなり煙は減りました。完璧とまではいかないけれど、確かに煙は減りました。そして、更なる「減煙」を目指しています。2月には、東山総合公園さんのお力により、炭窯を風雨から守る念願の屋根も完成し、ますます勢いづいてまいりました。

「けむり」は消えても、炭焼きをつづける情熱の「ほのお」は消えてませんよ。森づくりの会では、問題児の炭焼き班ですが、あきらめませんよ～

東山の森に「炭」を還元するまでは。



くらしの森の中道沿いに「子どもドングリの森」があり、若いコナラやアベマキが育っています。大きいものでは高さが5メートルほどになっています。これらの木は「子ども東山の森づくり隊」の活動の中で、隊員たちが持ち帰った実生の苗をその後再び持ち寄って植樹したものです。

当時の子どもたちも今は中高生か大学生。お父さんお母さんと一緒に森で過ごした日のことなど記憶の隅に追いやって、部活や受験、アルバイトに精を出しているかもしれません。

でも彼らの多くはやがて進学や就職を経てそれぞれ家庭を持つでしょう。そして毎日の仕事や家族の責任に追われ、少しくたびれた大人になるかもしれません。そんなとき、ふと東山の森を訪れることを思いついてくれたら素敵です。「子どもドングリの森」を歩いて疲れた心や身体を癒してくれるといいですね。そしてこの森を大切に思う気持ちにつながってくれたら嬉しいです。



ドングリの森植樹（友野啓康氏撮影）

森づくりを生かした支援・交流

- ・名古屋市職員研修「NPO派遣研修」研修生受入れ（名古屋市）・・・全5日
- ・25年度里山くらし体験「田んぼ講座」（名古屋市）・・・全6回
- ・25年度里山くらし体験「サツマイモ講座」（名古屋市）・・・全4回
- ・25年度里山くらし体験「そば作り講座」（名古屋市）・・・全4回
- ・CSR支援＝スズコナリヒラ竹林手入れ（名商エコクラブ）・・・10/14
- ・大坂池周辺植樹木活着調査（郷土種子保全協議会）・・・10/21
- ・茶屋が坂池生きもの調査（なごや生物多様性保全活動協議会）・・・11/17
- ・CSR支援＝大坂池南畑のクズ除去（RDS社）・・・12/7
- ・CSR支援＝落ち葉プールで遊んでみよう（蓮教寺どんぐりクラブ）・・・12/14
- ・CSR支援＝雑木林の手入れ（HTS社）・・・12/15
- ・猫ヶ洞池ゴミ拾い（日本野鳥の会愛知県支部、名古屋市ほか）・・・3/1
- ・大坂池南畑の植樹（郷土種子保全協議会）・・・3/16

なごや東山の森づくり憲章

私たち市民は、なごや東山の森づくりを通して共生型社会の実現をめざします。東山の森は、人々に潤いを与え、生き物たちに豊かな生育環境をもたらしています。東山の森は、人と自然の生命輝く森です。私たちは、協働して森を守り育て、森と関わり、森づくりを生かし、次世代に森の大切さと素晴らしさを伝えることを目的としてここに憲章を定めます。

- 一、私たちは、東山の森の豊かな自然とともにあることを大切にします。
- 一、私たちは、森づくりを通して生活の知恵や技術を生かし、伝えます。
- 一、私たちは、協働して豊かな森づくりを進めます。



★ホームページを見てください!!

⇒ 当会の活動を紹介するホームページです。

[なごや東山の森づくりの会](#)

[検索](#)

定例活動・班活動の様子、子ども森づくり隊の案内、各種イベントの紹介、

森の中で観察された生きものの紹介などなど内容豊富です。ぜひご覧ください。

《会員数：3月末日現在185名（個人181名 企業4社）》

《会員募集》

人と自然のいのち輝く森
「東山の森づくり」に参加しませんか!!

年会費：2,000円（企業：10,000円/1口以上）

入会申込・問合せ：〔連絡幹事〕鬼頭保

Tel/Fax: 052-751-9510

e-mail: kito022445@mediacat.ne.jp

編集後記

投稿歓迎⇒ 水谷泰通 Tel: 052-782-5036

e-mail: y-mizutani@r7.dion.ne.jp

会発足10周年、記念のシンポジウム、現場に近い皆さんからの声を中心にまとめました。会員増とともに新たな課題も浮かび上がります。

これからの十年、軸を何に置けばみんなの気持ちが纏まるのか、模索が続きます。とにかく前へ。